

多摩美術大学校友会会報

「alT」アルティ

The alumni association of Tama Art University

No. 12 目次 Contents

- 02 多摩美術大学校友会 at 八王子キャンパス ご報告
- 03 多摩美術大学校友会の今！2006年版 Data Note
- 04 校友会奨学金制度
- 05 出前アート大学のご報告
- 06 TAMABI people's now vol.003 内原智史
- 08 支部・有志活動の報告と予告

alT		2
1		3
4		5

- 1 上野毛キャンパスの紅葉
- 2 出前アート大学授業No.011の木村崇人講師の作品「星の木もれ陽」/体験中
- 3 出前アート大学「墨であそぼう」授業風景
- 4 ライティングデザイナー内原智史氏
- 5 校友会奨学生OB・内海聖史「色彩の下」/2004/80×1700/油彩・綿布・バネル/撮影:柳場大/MACAギャラリー

多摩美術大学校友会 at 八王子キャンパス ご報告

校友会では、毎年6月第一週目の日曜日に上野毛キャンパスで定期総会や各種イベントを行ってきました。今年は初の試みで7月22日(土)に八王子キャンパスに場所を移しての開催となりました。また、この日は多摩美術大学のオープンキャンパスの日でもあり、受験生・一般の方の来場者がいるなか、卒業生の方々も新校舎が続々と建ち並ぶ学び舎での一日を過ごされました。

■第12回支部長懇談会

校友会では毎年、定期総会にあわせて各支部の代表者をお招きして支部長懇談会を開催し、大学・校友会本部・支部の間で情報交換を行っています。今回の支部長懇談会では、本部より「会員カード作成事業」、「各支部のホームページ作成案」、「平成19年度校友会支部事業企画COMPETITION+シブコン+」について担当事業部の理事より説明いたしました。いずれも支部からのご意見、情報のご協力をいただきながら進めている事業です。また、限られた時間の中、各支部から活動報告や現状の問題点、今後の展望についてお話をうかがい、有意義な会になりました。支部からのご意見は、校友会全体の懸案事項として慎重に検討を重ねていきたいと思います。

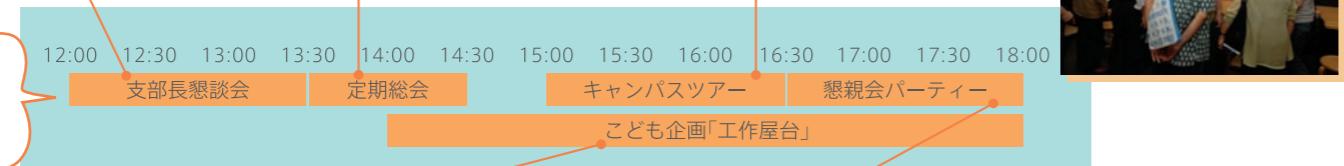
時間: 12:30~13:30
場所: 本部棟3F教職員ラウンジ



当日の校友会スタッフ

★イベントスケジュール

12時から18時まで校友会のイベントは一日通じて行われました。大学の講義や教室の展示とともに、八王子キャンパスを自由に過ごせたのではないかでしょうか?



～こどもと一緒に母校へ帰ろう～ 「工作屋台」が八王子キャンパスにやって來た！

構内や研究室を回って集めた材料を載せた屋台を引きながら、子供と一緒に卒業生父兄・スタッフが自由に工作しました。テキスタイル横横の池の周りにおやつの木が出現し、参加された大人の方々も童心にかえりました。

企画: 石井恵('94院油画)

時間: 14:00~18:00
場所: キャンパス内を移動



お子様連れの卒業生に好評でした！

■ガーデン同窓会

～すべての卒業生へ～

毎年、校友会では、卒業生ならどなたでも参加できるカジュアルな懇親会パーティーを企画しています。当日は暑り空でしたが、過ごしやすい気候で学年を超えた交流を持てたのではないかでしょうか? 鶴見会長のご挨拶の後、ニューヨーク支部長の中里齊氏('60油画)に乾杯の音頭を取っていました。また、現役学生のジャンベ部による演奏と踊りも披露されました。

来年は2007年、1997年、1987年、1977年、1967年、1957年が当たり年です。毎年、「幹事役」「声かけリーダー」を引き受け下さる卒業生を募集していますので、事務局までお問い合わせください。

時間: 16:30~18:00
場所: café aIT(カフェ・アルティ)



■ホームカミングデイ2006

～当たり年の卒業生へ～

2001年より、同じ下1桁の数の卒業年の方に「ホームカミングデイ招待券」を同封しています。みなさんにも10年に一度当たり年がやってくることになります。今年は、2006年、1996年、1986年、1976年、1966年、1956年の卒業生の方が該当しました。ガーデン同窓会と合同で懇親会パーティーを行い、当たり年の方には抽選で多摩美オリジナルグッズをプレゼントいたしました。

来年は2007年、1997年、1987年、1977年、1967年、1957年が当たり年です。毎年、「幹事役」「声かけリーダー」を引き受け下さる卒業生を募集していますので、事務局までお問い合わせください。

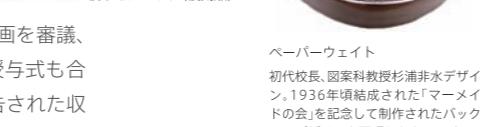
時間: 16:30~18:00
場所: café aIT(カフェ・アルティ)



'76卒業の須田理事と坂井理事

■校友会の目印 café aIT(カフェ・アルティ)

当日の校友会の拠点は、キャンパスの中庭に白いパラソルとチェアをご用意したcafé aIT(カフェ・アルティ)でした。昼は休憩所や集合場所に、夕方は懇親会パーティー会場になりました。また、校友会テント内では、多摩美術大学創立70周年記念グッズ、多摩帝国美術学校校章ピンバッヂ(復刻版)、ベーパーウェイト、オープンキャンパスTシャツ、多摩美オリジナルTシャツを販売いたしました。



ベーパーウェイト
初代校長、園芸科教授杉浦井水デザイン。1936年頃完成された「マメイドの会」を記念して制作されたバックルのデザインを再現したものです。

■第12回定期総会

平成17年度の事業・収支報告、また今年度の事業計画を審議、決定いたしました。また、平成18年度私費留学生授与式も合わせて行いました。別紙にて第12回定期総会で報告された収支報告と、議事録をお知らせいたします。

時間: 13:30~14:30
場所: 本部棟3F大会議室



■卒業生キャンバスツアー ～すべての卒業生へ～

現役学生が卒業生のみなさまを案内いたしました。新校舎に驚かれた卒業生も多かったと思います。大きく様変わりした八王子キャンパスを知りたい機会になりました。

時間: 15:00~16:30



2006.7.22.sat

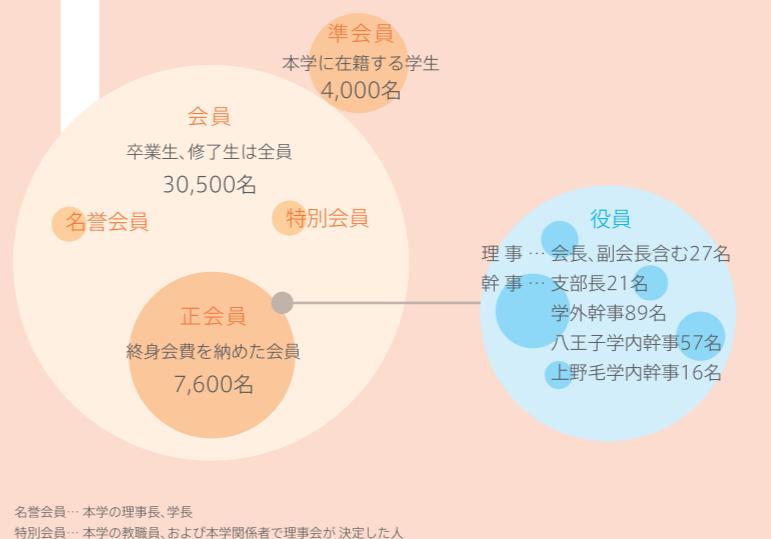


Data Note 2006年版 多摩美術大学校友会の今！

1995年11月、多摩美術大学創立60周年を機に、校友会が設立されました。「会員相互の親睦をはかり、多摩美術大学と芸術文化の発展に寄与することを目的とする」活動を続けています。まだ若い会ですが、タマビに対する思いも様々な22歳から90歳までの卒業生一人一人の共通感が校友会といえます。タマビの卒業生らしい集まり。何をしてくれるの?…なんてことはありません。私たちの会なので、得意とする分野で自由と意力を持って一緒に活動しましょう。

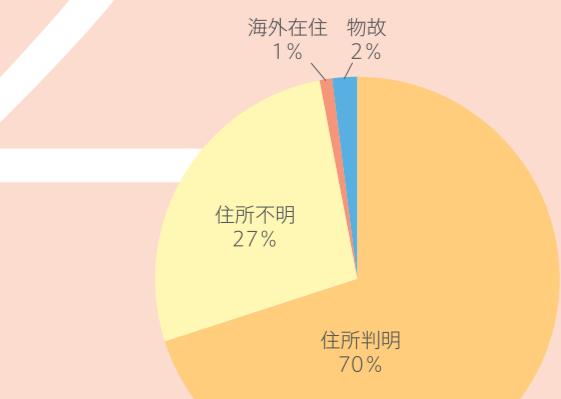
1 校友会の運営組織は？

校友会の運営は卒業生の代表者である役員のご協力でなりたっています。役員である学内の教職員、学外の卒業生が、ご自身のお仕事の合間、貴重な時間をさいて校友会を支えてくださっています。



お忘れなく！住所変更は校友会へ！

校友会では、個人情報を会の財産と考え「会員の有益な交流」を目的として安全性の向上に努めながら管理しています。変更がある場合は、校友会事務局へご連絡ください。また個人情報の取り扱いについて何か不都合な点がございましたら事務局までお問い合わせください。

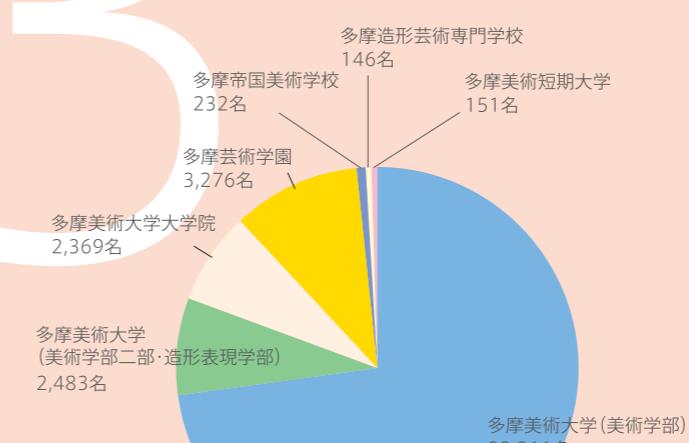


学校・学部別会員内訳

多摩帝国美術学校、多摩造形芸術専門学校、多摩美術短期大学、多摩美術大学、多摩美術大学院、多摩芸術学園を卒業、修了した方は、全て会員となっています。

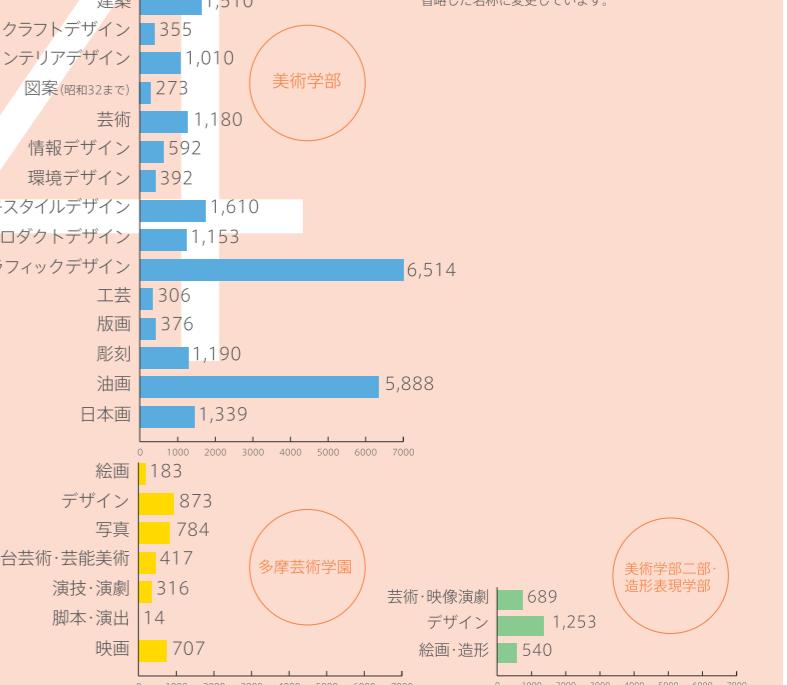
※全ての人数は卒業生数ではなく、校友会会員数をもとにしています。(一時在籍者の正会員登録も含みます)

※中途退学者は別途、入会手続きを行うことができます。



学科・専攻別内訳

※記載している科・学科名は正式名称ではありません。校友会では便宜上、研究室の流れを主として独自に省略した名称に変更しています。



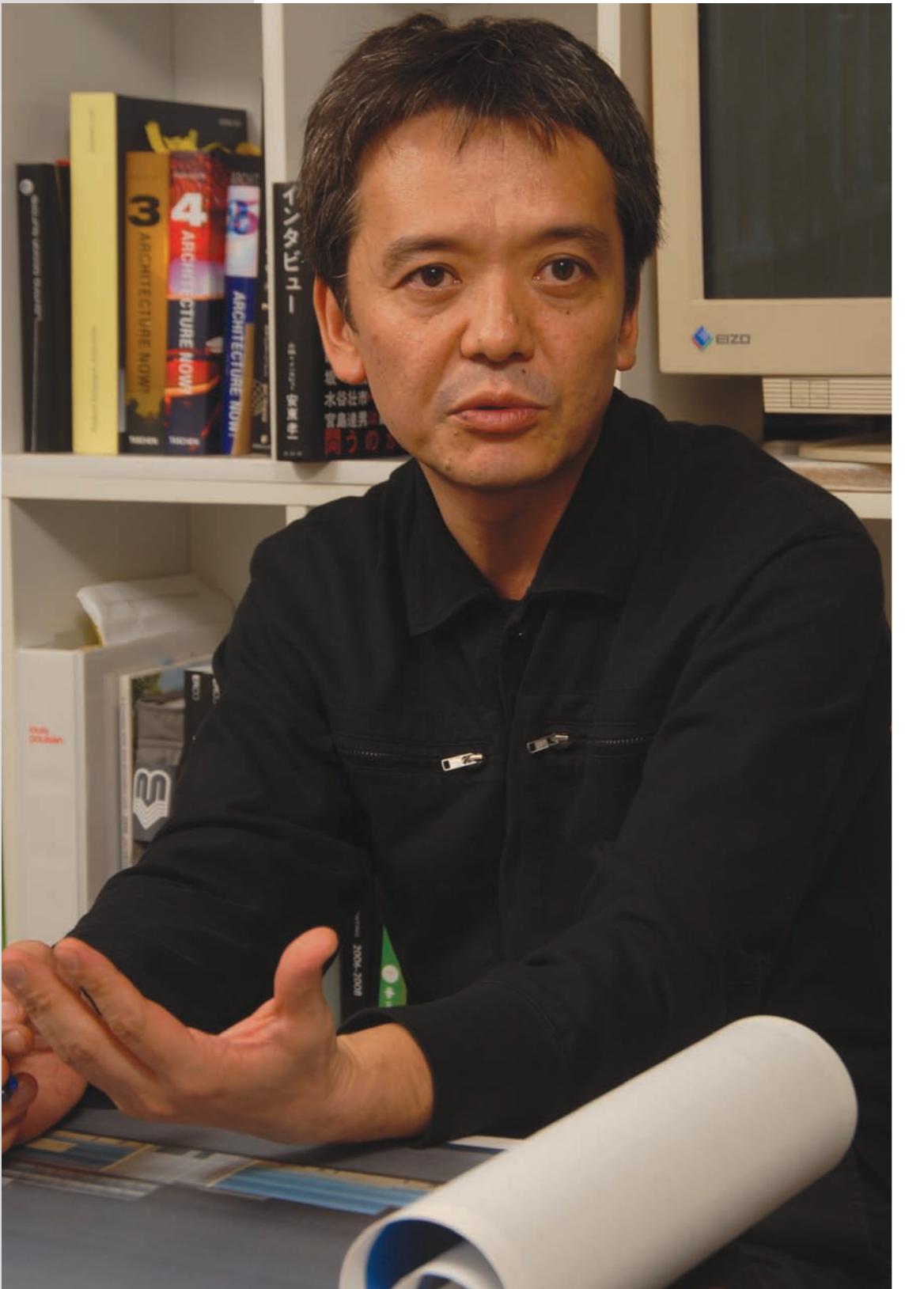
新企画「校友会カードをつくろう！」

決定していること

1. 多摩美術大学校友会の終身会費を納めていただいた正会員の方に発行いたします。
2. 多摩美術大学に対して校友会正会員であるという入校の際の身分証明になります。
3. カード提示による多摩美術大学美術館の入館無料・附属図書館の閲覧・複写の利用。(現在、図書館は図書館利用証を発行後、在校生と同じように閲覧可能ですが、会員カードを提示することで手続きが簡単になります)

今後のこと

カードのデザインは今後検討していく予定です。また美大らしさに特化した特典を徐々に付加していくと考えています。多摩美校友会カードの今後にご注目ください。



卒業生へのインタビューコーナー「TAMABI people's now」に今回ご登場いただいたのは、ライティングデザイナーの内原智史さんです。話題のスポット、歴史的建造物など日本各地で心に響く光による空間プロデュースを手がけいらっしゃいます。その現在のお仕事につながる原点についてお話をうかがいました。

内原智史 うちはら さとし ライティングデザイナー
1958年京都出身。1982年多摩美術大学デザイン学科卒業後、㈱石井幹子デザイン事務所入所。1995年(有)内原智史デザイン事務所設立。光による空間プロデュースを始め、照明器具から都市景観照明のデザインを手がける。日本照明学会会員、IESNA北米照明学会会員、IALD国際照明デザイナーズ協会、福島景観アドバイザー、多摩美術大学非常勤講師。主なプロジェクト:アーチビルズ、うつくしま未来博、愛宕グリーンヒルズ、ラクア、六本木ヒルズ アリーナ、向ヶ崎坂コンプレックス、向毛庭園、東京国際空港第二ターミナル羽田、表参道ヒルズ。1994年より平等院、金閣寺、銀閣寺、青蓮院などのライティングを手がける。

UCHIHARA
SATOSHI
graduate department of design

テレビ番組NHK「プロフェッショナル」を観て感動しました。
そのライティングデザイナー内原さんが多摩美の卒業生であると知り、とにかくお話を聞きたくて押しかけていました。

あのNHKの番組で取り上げていた平等院の仕事。
ここだけの話…恥ずかしいけど、あれはデザイナーとしては何もしない。コンセプトやイメージはあったけど。平等院鳳凰堂の水面に光をそぞご込んだ瞬間にスタッフ含めて内原、呆然と立ち尽くしたと…。普通、あんまりないんです。だいたいは思っていたより以下なんですよ。自分の仕事に対して、そういう見方も冷たいからよくないし、もっと愛情を持って見ないといけないけれど、あの時だけは呆然自失という感じだった。
つまりは、水がやってくれているわけです。水の力。そして、俺はただそれを組み合わせただけ。だから正直にすいません、これは俺の仕事じゃない、俺のデザインじゃないです、と思った。あの現場で。
この平等院の仕事もそうだけど、どの仕事にも予期せぬショックがあるんですよ。いろいろ感動しながらやらせてもらっています。

「光」を意識したきっかけ、ライティングデザイナーとして「光」を仕事にするきっかけは何でしたか?

大学当時、インテリアデザインに進んだけれど、インテリアデザインは空間的なところでは表層のワークスコープだと思い、やっぱり建築もやらなきゃだめだと気づいた。それから建築家の作品を覗てまわったりをよくしたんだけど、別にインテリアデザインでも建築でもなく、俺はいったい何をしたいのだろうなって考えている時に、あまり大きな声では言えないけど、4年生になって初めて図書館に行ったんですよ。

その時に、「ル・コルビュジエの建築が光の受容器である」というセンテンスに触れたんです。さらに、同じようなことを言ってる人が何人もいて、ものすごく感動したんです。

あと、京都で育ったせいか、ご飯の話題の時でも、器(うつわ)という概念が重いんです。「食器」じゃなくて「うつわ」だったり、「お椀」だったり「漆」だったり、結構当たり前のようなことだけ「うつわ」にこだわる。

とにかく「うつわ」という捉え方にすごく感動したんです。注ぎ込む容器で? 空っぽのものとお茶が入ったものって全然価値観が違うわけですよ。それで、建築っていう「器(うつわ)」に何を注ぐ? というと、光を注ぐためのものなんだっていう話ですよ。もう、びっくりして「光」なんだ!って。

初めて図書館行った奴には、もう「シメシメ」という感じだった。

ご出身は京都なんですね。その子どもの頃の話を聞かせてください。

人間付き合いが下手くそだったんですよ。小学校6年間も中学時代もいじめられたりと。そういうこともあって東京に行きたかったんですよ。受験を口実に、親を騙して。

でも、東京に出てきて実はもっと苦しかった。今まで自分は絵が上手くと思っていたら、えらく下手くそだった。予備校でも半年間ほとんど誰とも口を利かずに、ますますばい方向に行ってましたね。意思疎通が上手くできないものだなって、そんなに悲愴感はないけど思っていたんです。

言葉に苦労したんですよ。その原因はたぶん京都にいたことが大きい気がします。関西、特に京都の中高校生の会話を聞いていたり、「どーすんねん」「あえええか」とかね。だから何が言いたいの? っていう会話ですよ。「それでお前何がしたいねん?」「あー俺はもうええわー」この「ええわー」って、いいのか悪いのかわからない会話ですよね。

内原さんは、言葉で「光」を形容していると思ったのですが、言葉に対するこだわりはありますか?

さっき言ったように子供の頃は言葉で苦労した。ところが、34歳の時に独立して東京と京都を往來するうちにだんだん、不思議だけど、あの言葉(京都弁)のまどろっこしさが気持ちよくなってきた。今までには「はよ、返事せよー、お前」っていう感じだったのに、「まあまあ、ええやん、ええわ。ええわ。」っていうことが心地良くなってきたんですよ。それってコミュニケーションなんだよ、ふと気づいた。若い時は「イエスなの? ノー? どちら? 好きか嫌いかどちらやねん?」ということに対してジレンマがあったわけだけど、そんな歳になってようやくわかってきたんですよ。

言葉というのは、物事を断定するためだけのものじゃないんだと捉えるようになって、急に魅力的になってきたわけです。あの言葉(京都弁)が、日本語が、ものすごくイマジネーション豊かなものなのだと。例えば、「揺れる」と「揺らぐ」、二つとってもイメージは全然違う。それはどちら

も実体をつかめていないでしょ? 「揺れる」、「揺らぐ」というのはどんな現象かは説明しづらい。言語としての識別は辞書には書いてあるけど、実は、それだって真理じゃない。言語の持っている意味として、とりあえず書いてあるけど、そこには実はものすごく深い現象がいっぱいまとわりついている。それが面白いなと思ったら、「いやーほんまですか?」というのがすごく楽しくなってきたんですよ。

今、多摩美の環境デザイン学科で非常勤講師をされていますが、学生と接して感じることは何ですか?

人は、それぞれの時代とか環境とかありますよね。例えば、どんな親に育てられたとか、テレビをければ何が流れているかとか、そのテレビの画面がどんな速度で変わるかとか、どんな速度で情報と接しているかとか、感覚領域というのは、その周りの環境と学生本人の個的な部分との合わせ技で出来あがっている。必ず環境というバックボーンがある。しかし、好きでもないのに影響される部分も多いじゃないですか。例えば、今これが流行ってるっていうことは、みんなが言っているから自分の中でも受け取っているつもりになっているけど、実はそんなに好きでもなかたりするでしょ?

そもそも、自分たちの頃も、今も、感覚領域 자체は変わってない。しかし、今はコマーシャル自体のメカニズムが転々と、しかも早い速度で回るから、そこについていくために、趣向の選択をする前に自分の中を通すということが昔よりはるかに多くなっていると思う。

だから、今いろいろな意味で恵まれてはいるけれども、ずいぶんと煽られているのかなって心配になる。我々の時みたいにもう少し馬鹿みたいにひとつのことを追っかけて、たっぷりひとつ遊びで満足してということが少なくなっているかもしない。それが可哀想なのか可哀想じゃないのかなっていう価値判断をしてはいけないけど。

とは言え案外、自分と今の学生との共通点はたくさんありますね。学生一人一人と接すると「あらら?」っていうことは少ないです。ものすごく変わってきたんだなということよりも、意外と変わらずにピュアと感じるそんな面もあります。

今のは学生は真面目で勉強ですね。



見てても、同じ色には見えないんです。綺麗なブルーだねといいながら、我々は同じブルーを見ていないことになる!

つまり、物理的事実は共有はできない。ここにベンがあるって思っているけど、あなたの目に映っているベンと私の目に映っているベンは絶対違う、怖いよね、悲しいよね。

でも、そうなると共有とか共感ってどう成立するのですか?

そう、でもなんで我々はつながったり共有できたりするのだろうと考えたら、想像の世界または創造の世界といつてもいい、こんなにファジーであやふやで人の価値基準では限定できない領域だけが共有できると気がついたんです。

言葉も言ってみれば一つの物理として考えられる。例えば、「赤」と書けば「赤」のイメージがひろがる。でも、その「赤」という言葉をほんと投げかけられてお互いに描いているイメージが肉薄するかどうかっていうところが共感なんです。同じ「赤」を見ているという行為だけでは、それは物理的事実だけあって共感にはならない。

だから、やっぱり想像・創造領域というのはものすごいと思う。人間の考えてることや想像力をいい加減、曖昧なことって思うかもしれないけど、実は最も重要なことなんだなといまさらって思う。見てる事実よりも頭で描いているの方が大事なんだって。

今ね、取材に来てくれた君たちとこうやっているということを感じながら、お互いに、もっと知りたいとか、いっぱい話したいとか、面白いとか、そこは共有できる。それは、この頭の中で、こいつと今日は偶然出会えたし、なんか久しぶりだけど同じ多摩美卒で面白いなーというイメージや、感じていることが肉薄するからなんですよ。それが共感なんですよ。一メートルぐらいこの距離に二人がいるという物理的存在だけでは決して共感できないでしょ? それは事実だけど捉え方が全然違うから。

確かに、人間の想像領域はとても曖昧なものですね。

想像領域は、とても大切。

そのこと、日本の「間(ま)」の感覚みたいなことも絡み合い、日本語を素敵だと思う。昔は、曖昧でわかりにくくて苦労したけれどこの日本語って素敵だなって。日本人も素敵だから自信を持ってノーと言えなくていい! ノーって言えないところが文化、みたいな。たしかに政治的には言わなきゃいけない時があるのはよくわかる。だから石原慎太郎氏の本を読んだし、言わんとしていることもよくわかる。だけど、ノーと言えないってことも大事だね。俺たち日本人は自信をもってノーと言えないことの理由を自覚していればいいんじゃないとか。そういう体质で、それが文化で、そこが我々の人間性なんだよ。

風土とか気候とか、それもあるかもしれない、ユックシュクしてもいいじゃない。常に竹割ったようなことでなくともいいじゃないって。たまには割るけどね、ぱかっと。僕も性格的には、いつも思い悩むし、湿度120%な感じ。

唐突な質問ですが、朝と夜どちらがお好きですか?

どっちが好きだろうな。正直言うと朝のほうが好きかも、でもどちらもその中間が美しい。

夜は疲れちゃって、夜、嫌いかもね(笑)。

当たり前だけれど、いろんな好きがありますよ。例えば、友達と楽しく過ごしたり、食事をしたりするとなると夜の時間帯に会うことが多いし、そういう夜は楽しいじゃないですか?

ただ、目で見る世界をいいなと思うのは、やっぱりまだるんでいる時かな。夕焼けだけじゃなくて、そのあと世界だったり、あのふわーっと変わっていく瞬間とか。だから、朝も同じことが起こっているような感じで好きなのかな。

何か止まっていないものの感情移入しやすいじゃないですか。揺らいでいたり、とにかく止まらないということは、いろんな意味で助けられるし、やっぱり自分の存在感も感じる。

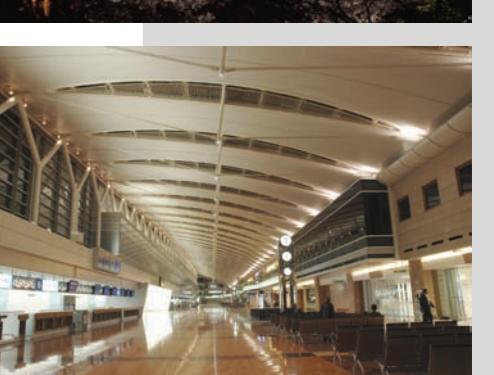
くだらないことだけど、朝、駅から歩いている自分の速度と車の速度って、何かを感じているよね、きっと。なんで爽やかで清々しいかと理由はあんまり考えないけど、その全然関係ないものなのに、二つの事象が合う雰囲気で大事なことです。例えば、夕日が沈んでいく一つのスピードや時間の感覚と、そこに自分が立ち止まっていたり、ちょっとした息混じりだけでも気分転換したいと思っていたり、とか。

これから夢を教えてください。

やっぱり、夢は今までたってもこの仕事を好きでいたいってことかな。仕事をする上では反省も必要だし、そのためにはアグレッシブでいたい。自分の活力を引き出さなきゃいけない。そういうことが今、力不足だなと思っているんですよ。

まずは、健全でいたい。健全というのは、たぶんバランスのことだと思うんですよ。入ることも出ることも均等に、出るばかりじゃないとか、疲れているばかりでなくて休んでいるとか、怒っているばかりでなく笑っているとか、食べるばかりでなく出したりとか、ね、選り好みしてるばかりでなく受け入れると、全てがバランス的に健全であるように。

バランスが取れると健全なんだろと思うんです。ものすごくわがままであったら、ものすごく受け入れられるというバランスを持っていると健全だと思うんですね。常にわがままを通して、ちょっと不健全かな。だけどわがままもすごく必要。ゼロになってないことがいいのではない。両方抑揚をもつバランスが大事。



プロジェクト名(上から)
平野院「鏡想瑞光」 カメラマン:小山光三
清水寺「燈彩」 カメラマン:藤原光政
東京国際空港第二ターミナル羽田 カメラマン:金子俊男
オランダヒルズ森クワーカ カメラマン:金子俊男
六本木ヒルズやき坂コンプレックス カメラマン:ナカサ & パートナーズ

TAMABI
people's
now

内原智史
vol.003

●千葉支部「千葉多摩美会」・報告

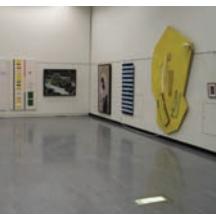
第9回千葉多摩美会展

会期:2006年5月30日(火)~6月4日(日)

会場:千葉県立美術館第4室



千葉支部



広島支部

●群馬支部「ぐんたま」・報告

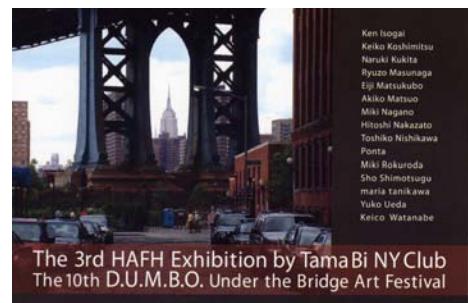
オープニングキャンパスツアー2006

日時:2006年7月22日(土)

場所:JR高崎駅~本学八王子キャンパス(バスツアー)



群馬支部「ぐんたま」



N.Y.支部 展覧会DM

●愛知支部「多摩美愛知の会」・報告

第1回多摩美愛知の会展

会期:2006年7月29日(土)~8月6日(日)

会場:ギャラリータマミジアム



愛知支部「多摩美愛知の会」



多摩教育の会

●多摩教育の会・報告

総会・研修会

日時:2006年8月7日(月)~8日(火)

会場:多摩美術大学八王子キャンパス

●広島支部・報告

第7回2006 ART NOW展

会期:2006年8月22日(火)~27日(日)

会場:広島県立美術館県民ギャラリー第3室



○有志「多摩美神奈川同窓会」・予告

2006 festa ALTE

会期:2006年11月20日(月)~26日(日)

会場:ガレリアセルテ



●ニューヨーク支部「Tama Bi NY Club」・報告

HAFE III EXHIBITION

(ふる里から離れた第二のふる里での表現)

会期:2006年10月13日(金)~15日(日)

参加:The 10th D.U.M.B.O. Under the Bridge Art Festival

○神奈川支部・予告

第4回みなとみらい展2006

会期:2006年12月18日(月)~23日(土)

会場:横浜本町画廊

事務局からのお知らせ

「多摩美術大学校友会小品展2006」の開催

会期:2006年12月3日(日)~9日(土) 10:00~18:30

会場:文房堂ギャラリー(東京都千代田区神田神保町1-21-1文房堂ビル4F)

初日17:00よりオープニングパーティーを行います。

昨年の出品者数は163名、作品点数237点、売上金が約145万円でした。売上金より経費と画料をさしひき、私費留学生5名へ奨学金をお渡しすることができました。来年は第10回という節目にもあたります。この小品展もバージョンアップし、より楽しい企画にしたいと、ただ今検討中です。

**Bumpodo
GALLERY**



役員改選のご報告

2006年7月22日の定期総会において役員改選を行いました。退任される理事・幹事の方々には、任期中はお忙しい中にもかかわらず、会議へのご出席・各事業部担当、ボランティア活動など多大なご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

新任理事



下田紀史
('65油画・学外)



武正秀治
('80PD・学内)

新任幹事

津田祥夫 ('64国画・学外) 和田則夫 ('77PD・学外)
吉澤美香 ('82油画・学内) 尹 熙倉 ('88院油・学内)
濱田芳治 ('94PD・学内) 京野弘一 ('95建築・学内)
佐竹邦子 ('95油画・学内)

退任理事

田辺光彥 ('61彫刻・学外) 大倉友光 ('61写真・学内)
田中康夫 ('71油画・学内) 中村孝義 ('72G D・学外)

退任幹事

植木 薫 ('90油画・学内)

あなたの展覧会・イベント情報の募集

Eメールはもちろんのこと、パソコンをお使いでない方でもDM1枚を校友会事務局にお送りいただければ、こちらで画像と文字情報をホームページ上に掲載します。「今月の展覧会」に、ぜひ、あなたの情報を寄せください。また、「卒業生のHPリンク集」の情報もお待ちしています。

編集後記

今年度より事務局の一員になり半年が過ぎました。理事会、幹事会、定期総会など日常業務を踏まえながら、多摩美を接点に自由な意志で社会へ拡かりを持ち、交流を図る校友会の一翼になればと考えています。現在、校友会会員は約3万人います。詳細の内訳は特集「校友会の今! 2006年版Data Note」をご覧いただくとして、多くの方々に校友会活動にご興味を持っていただけると幸いです。(栗原)

訃報

後藤紹士 第5代学長、校友会顧問。享年86歳、2006年2月13日にご逝去されました。

松葉 良 多摩芸術学園元園長。享年87歳、2006年3月24日にご逝去されました。

多摩美術大学校友会 会報 No.12
発行日:2006年11月15日
発行:多摩美術大学校友会事務局
〒158-8558 東京都世田谷区上野毛3-15-34
Tel:03-5758-7738
Fax:03-5758-7739
E-mail:alt@tamabi.ac.jp
<http://www.tamabi.ac.jp/alt/>
企画編集:和田達也 伊藤憲夫
末房志野 岡廣聰子 栗原真依子
デザイン:末房志野
印刷:有限会社グラフィックケイ・エム・エー

多摩美術大学校友会会報

「alt」アルティ

The alumni association of

Tama Art University

alt

No.12
Autumn 2006